ゲスト

〈ヴァイオリン〉林 ひかる

北星学園女子高等学校音楽科卒業。北海道教育大学岩見沢校芸術課程音楽コース弦楽器専攻卒業。シベリウスアカデミーに留学。2014年、札幌音楽家協議会ハンガリー公演に参加。2018年2月には、日本シベリウス協会北海道支部主催のソロリサイタルを開催する。また、クラシック以外の演奏会の自主企画やレコーディング、オーケストラの客員演奏も務める等、活動は多岐にわたる。これまでに6枚のCDをリリースしている。

〈ピアノ〉村上和歌子

藤女子大学文学部英文学科を首席卒業後渡英。英国王立音楽大学大学院ディプロマコースをディスティンクションにて修了。第22回スメタナ国際ピアノコンクール第3位、併せてスメタナ最優秀演奏者賞受賞。後進の指導の他コンサート活動、講座講師、コンクール審査員を務める。現在、札幌コンセルヴァトワールピアノ科准教授。エルム楽器特別クラス講師。札幌音楽家協議会会員、全日本ピアノ指導者協会正会員。

〈ソプラノソロ「キエフの鳥の歌」〉川島沙耶

北海道教育大学岩見沢校芸術課程音楽コース声楽専攻に進学。同大学院修士課程修了。2014年に渡米、オレゴン州ポートランドにて研鑽を積む。札幌市新人音楽祭にて札幌市民芸術祭大賞受賞。また毎日新聞主催全日本学生音楽コンクール全国大会第2位など多数のコンクールで入賞し、ソプラノ歌手として道内外で活躍している。パナソニック杯第66回毎日甲子園ボウルでの国歌独唱、札幌文化芸術劇場hitaruオペラプロジェクト「フィガロの結婚」ケルビーノ役、2023年HTBジルベスターコンサート〈札幌交響楽団との共演〉といったクラシックのステージに留まらず、ビッグバンドの一員としてBlue note東京、Billboard横浜、Cotton Clubといったジャズのステージにも数多く立つなど声の可能性を生かしたクロスオーバーなパフォーマンスにも定評がある。北翔大学教育文化学部教育学科非常勤講師。

賛助出演　北の星東札幌保育園・くまの子保育園・桑園保育所の保育士のみなさん

昨年から合唱指導などでつながりができました。「今回の演奏会でいっしょにうたいませんか」という私たちの呼びかけに18人の保育士のみなさんが応えてくださいました。明るく元気に素敵な合唱をお届けします。

想像してごらん IMAGINE

ピアノ

札幌大谷大学音楽学部音楽学科ピアノコース卒業。在学中に卒業演奏会、卒業後に波の音会コンサート、モーツァルトアーベントピアノ演奏会、ベルソノリティーコンサート等に出演。ソロやアンサンブル、器楽や声楽、合唱などの伴奏ピアニストとして活動する傍ら後進への指導に当たる。札幌西区のShinoピアノ教室主宰。ピアノを大門敬明氏に師事。波の音会、モーツァルトアーベント各会員。

山田しのぶ

札幌大谷大学芸術学部音楽学科ピアノコース演奏クラス卒業、同大学研究生修了。卒業時、大学の推薦によりジョイントリサイタルを開催。第16回ベーテン音楽コンクール全国大会金賞。VOCiS ANiMAES、国際情報高校合唱部、西野中学校合唱部、札幌放送合唱団、北海道大学合唱団、弥生奏幻舎"R"、北海学園大学グリークラブ、北海道合唱団などで合唱ピアニストを務める。リトルスピリッツ常任ピアニスト。ハイメスアーティスト会員。

藤村美里

合唱団員名簿

Soprano

石毛 妃路美
佐藤 幸恵
田中 睦子
中村 千恵子
藤宮 幸子
細川 光
堀口 むつ子
松村 恵美子
森若 美代子
石川 洋子
伊林 みち子
岩間 寿美子
小崎 勢津子
品田 千鶴子
島谷 多津子
沼舘 亜里
高見 優子
本多 かほる
宮崎 美紀
坂口 幸江
古賀海 華穂
高橋 春香
稲垣 友倫子
正武家 果澄
山本 静香
岩橋 由
佐藤 真奈美

Alto

大塚 園子
菊岡 俊子
黒澤 眞知子
成田 美枝
宮崎 鮎子
宮崎 規子
北畑 幸子
小室 博子
高木 悦子
能藤 美佐子
松岡 泰子
溝口 裕子
脇坂 米子
渡辺 美江
神 亜由子
秋元 佳奈子
渡部 倫子
渡辺 朋子
舛田 真弥
山口 みのり
今野 奈々
畠中 菜月
中西 景子

Tenor

佐々木 克幸
城島 洋次郎
高崎 英夫
中村 由紀男
増子 捷二
松村 宏
宮口 信博
安田 耕治
渡部 敏広
川眞田 憲治
鈴木 貴雄
山田 直樹

Bass

大堀 尚己
河地 俊広
佐藤 寿彦
高畠 賢
土屋 芳治
近藤 幸雄

※演奏団員　※保育士のみなさん

いっしょに歌いませんか　団員募集

練習▸毎週火・金19～21時(月に数回、土日祝日の昼間の練習に振り替えあり)
団費▸4,100円(うたごえ新聞購読料含む)、入団費2,000円
会場▸東札幌教会(白石区菊水1条4丁目)　**問い合わせ**▸090-9511-9469(成田)

練習見学はいつでも大歓迎、気軽にご連絡ください。

北海道合唱団のうたごえ喫茶

8/31(日)14時～
北区民センターホール北区北25条西6丁目
参加費800円
障がい者100円

想像してごらん IMAGINE

2025 北海道合唱団 定期演奏会

2025年7月6日［日］
札幌サンプラザ
コンサートホール

主催　北海道合唱団　　後援　札幌市・札幌市教育委員会・札幌合唱連盟
札幌市白石区菊水1条4丁目6－36　TEL&FAX011-811-9889/090-9511-9469（成田）　HP https://hokkaido-chorus.info/

ごあいさつ

本日はお忙しい中、2025北海道合唱団定期演奏会にお越しいただき誠にありがとうございます。
私たちは「うたごえは平和の力」をスローガンに、音楽を通じて平和運動に参加している文化団体です。コンサートのタイトルを「IMAGIN 想像してごらん」としました。
ウクライナで、ガザで、そしてイランで、戦争が続いています。想像してみましょう。昨日まで家族が暮らしていたアパートがミサイル攻撃を受けて廃墟となることを。医療も食料も届かず、負傷し飢えて苦しむ人々を。戦争に未来を奪われた子どもたちを。
今年は戦後80年、被爆80年の節目の年です。昨年の日本原水爆被害者団体協議会のノーベル平和賞受賞は、平和を願う多くに人々にとって大きな喜びと励ましになりました。
想像してみましょう。すべての争いがなくなり、人々が自由に行き交う世界を。核兵器も戦争もない世界を。夕焼けが血の色ではなく、バラ色である空を。
私たちはそうした思いを込めて歌います。
今回は新たな出会いもあります。
私たちは縁あって真狩村出身の作曲家 八洲秀章さんの歌を歌うことになりました。第1部では「あざみの歌」「毬藻の唄」を演奏します。そして8月10日にはかでるアスビックホールで開催される「八洲秀章生誕110年記念『あざみの歌』コンサート」に参加します。
昨年から合唱の練習を通じて北の星東札幌保育園、くまの子保育園、桑園保育所の保育士さんたちと交流を続けています。今日はその保育士さんたちも一緒にステージに立っていただき2曲を演奏します。
そして今年も札幌周辺や旭川から、多くの仲間が演奏に加わってくれました。ゲストには私たちと何度も共演していただいているバイオリニストの林ひかるさんをお迎えしました。
たくさんの人たちと心を合わせて創りあげる音楽をお楽しみいただければ幸いです。

北海道合唱団　団長　大堀尚己

最近の活動から

田中照巳さん講演会 2025.5.24

第96回メーデー北海道集会2025.5.1

ホームシックスコンサート2025.4.20

うたごえ喫茶 2024.12.22

日本被団協ノーベル平和賞受賞メモリアル行動2024.12.10

想像してごらん IMAGINE

第 1 部　指揮／高畠賢・黒澤眞知子　ピアノ／藤村美里

町
作詞　山ノ木竹志／作曲　たかだりゅうじ　編曲　信長貴富

あざみの歌
作詞　横井弘／作曲　八洲秀章／編曲　ダークダックス／伴奏編曲　白石哲也

毬藻の唄
作詞　いわせひろし／作曲　八洲秀章／編曲　寺島陸也

さよーならまたいつか！
作詞作曲　米津玄師／合唱編曲　アベタカヒロ

時代おくれ
作詞　阿久悠／作曲　森田公一／編曲　藤村記一郎

コタンわがふるさと～「パナンペ・ペナンペ昔話～」より
作詞　中村欽一／作曲　丸山亜季／編曲　高畠賢・佐藤幸恵

どの国に生まれても
原詩　清水雅美／作詞　創作グループ2025
作曲　高畠賢／伴奏編曲　佐藤幸恵

町
夕張市は炭鉱の最盛期に人口11万7千人を数えましたが、1970～80年代に炭鉱が閉山して人口が減少。1981年に起きた北炭夕張新鉱の事故（死者93人）と2007年の夕張市の財政破綻がそれに追い打ちをかけました。今、夕張市の人口は6千人です。それでもここには人々の暮らしがあり、季節が巡り、そして夕張を離れた人たちの故郷への思いがあります。この歌は2008年夏、夕張で開催された北海道のうたごえ創作合宿に参加した広島合唱団の山ノ木竹志（本名：新江義雄）さんによって作詞されました。病院も鉄道も仕事も無くなり、映画のロケを記念する「幸せの黄色いハンカチ」が揺れる空っぽになった炭住の前に立って、生きること、暮らし合うことはと、と問いかけています。それは夕張だけでなく、誰の故郷にも通じる言葉です。

あざみの歌
昭和20年に復員してきた当時18歳の横井弘が疎開先の長野県下諏訪の八島高原（霧ヶ峰）で野に咲くあざみの花を眺めながら、理想の女性の姿を重ねて綴った歌詞に、八洲秀章（真狩町出身）が作曲した歌がNHKのラジオ歌謡に採用され、昭和24年8月8日から放送され、NHKの「日本の歌 ふるさとの歌100選」にも入選し、今でも皆に愛唱される歌となりました。発祥の地、八島高原に歌碑が建っています。
今年は作曲家八洲秀章の生誕110年、北海道合唱団は8月に「あざみの歌コンサート」に出演予定。（詳細は折込のちらしをご覧ください）

さよ―ならまたいつか！
2024年度NHK前期連続テレビ小説『虎に翼』の主題歌です。『虎に翼』は日本初の女性弁護士で、後に裁判官を務めた三淵嘉子さん（1914～84年）がモデルのオリジナルストーリー。タイトルの『虎に翼』とは、中国の法家・韓非子の言葉で「強い力を持つ者にさらに強さが加わる」という意味で「鬼に金棒」と同義語です。
『さよーならまたいつか!』作詞・作曲の米津玄師は「台本を読んで、主人公の生き様を振り返りながら、並々ならぬエネルギー、力強くも軽やかな何かをこの曲に宿したいと思って創っていった」と言います。
「100年先という言葉が何度か出てきますが、モデルの三淵さんからしても、私たちは100年先の誰かであり、私たちにとっても100年先に続く誰かがいる。その連鎖は非常に美しいし『虎に翼』の曲を書く上でとても重要だと思いました」と語っています。

どの国に生まれても
原詩は福井センター合唱団団長の清水雅美さんにより、オンライン創作講習会に持ち込まれました。この詩の印象的なフレーズ、4番の「できるならその順を　まちがえる　ことのなく」に関する清水さんのお話に魅かれました。
「知り合いのお葬式で、参列されていたおばあさんの『…人は生まれた順に死んでいくのが一番いい。その順番が狂ってしまうのが戦争だ…』というお話が印象的でした。」
ウクライナやガザを思い、「戦禍の中の子どもたちへ」という副題をつけました。この歌のような世界を創り出せていない大人たちの反省を込めて。

想像してごらん IMAGINE

第 2 部　ゲストステージ　ヴァイオリン 林ひかる　ピアノ 村上和歌子

C.ガーシュウィン作曲／ハイフェッツ編曲 オペラ「ポーギーとベス」より
サマータイムと女は気まぐれ

A.ヴィヴァルディ作曲 ヴァイオリン協奏曲『和声と創意の試み』作品8「夏」より
第2楽章 Adagio-Prest
第3楽章 Prest

C.フランク作曲 ヴァイオリンとピアノのためのソナタイ長調より
第4楽章 Allegretto poco Mosso

第 3 部　指揮／高畠賢・黒澤眞知子・中村由紀男　ピアノ／山田しのぶ

夕焼け
作詞　高田敏子／作曲　信長貴富

被爆のまち
作詞　石原いっき／作曲　高畠賢／伴奏編曲　佐藤幸恵

生きてゆくために
作詞　林悟／作曲　高畠賢／伴奏編曲　佐藤幸恵

ねがい
作詞　広島市大州中学校3年生有志／編詞　山ノ木竹志／作曲　安広真理

新世界
作詞　山ノ木竹志
作曲　A.Dvořák
編曲　池辺晋一郎

キエフの鳥の歌
ウクライナ歌謡
訳詞　木内宏治
編曲　田畠佑一
ソプラノソロ　川島沙耶

夕焼け
この曲はもともと全5曲からなる「空の名前」の終曲にあたる女声合唱曲でしたが、合唱団京都エコーのために混声合唱曲として編曲、2007年に初演されました。指揮者、浅井敬壹氏が抱き続けている平和への強い祈念が、混声版編曲実現の源泉となっています。
夕焼け空のようにゆったりと拡がる歌声に、ピアノから聞こえてくる懐かしい旋律が郷愁を生み、私たちに暖かい風景を与えてくれると共に、戦火を経験した詩人の平和への祈りも心に刻みつける曲です。

新世界
2002年日本のうたごえ祭典in福岡で初演、翌年の長野祭典でオーケストラとともに全国合同で歌った「新世界」。ドボルザークによる「交響曲第9番『新世界より』」の第2楽章の旋律に池辺晋一郎編曲、山ノ木竹志作詞の合唱曲。

「♪遠き山に日は落ちて・・・」の家路とは全く別物で、人間の復権・解放へ向けて旅立つための「大いなる帰郷」という発想で描かれています。山ノ木さんは、あの9. 11で世界がどのような状況にあるのかが見えてきて、もう一度＜原郷・ふるさと＞に還り、そこから立ち上がっていく姿、人生の旅の途上で歌う新世界をイメージして書いたと語っています。「♪新たな世界　胸に秘め　心静かに歩みゆく　辿る旅路に光あれ」と未知の世界への秘めた闘志を力強く歌います。

11月24日「日本のうたごえ祭典in神戸/ひょうご」にて全国の仲間と歌う予定です。

キエフの鳥の歌
北海道合唱団第2回海外公演（1984年）、当時のソビエト連邦ウクライナ・キエフでの歓迎会で演奏された曲を木内宏治氏が持ち帰り採譜、日本語詞をつけて、北海道合唱団が歌い広め、今や多くの合唱団で歌われています。原曲は「サヨナキドリ」「また秋が来て」。ウクライナでは伝説の鳥が村々を訪れ幸せをもたらす言い伝えがあり、軒下には鳥の木彫りのレリーフが飾られている風景が見られるといいます。
北海道合唱団の公演の2年後、ウクライナはチェルノブイリ原発事故に見舞われました。その被害者救援を訴えてナターシャグジーさんは2000年から自身のレパートリーとして歌い続けています。ウクライナの悲しい歴史と共に戦争が終わることを願って私たちもこの歌を大事にしていきたいと思います。
今回は北海道出身の若手音楽家、田畠佑一氏の編曲により、ソロ川島沙耶氏を迎えての演奏となります。